

市庁舎建設調査特別委員会

行政視察報告書

報 告 者

委員長 森 脇 悦 朗 副委員長 土 井 正 人
委員 田 中 利 徳 多 田 伸 治 石 橋 孝 義
河 野 正 行

視 察 項 目

1. 兵庫県揖保郡太子町
【平成29年7月13日（木）】
・太子町新庁舎建設について
2. 岡山県高梁市
【平成29年7月14日（金）】
・高梁市新庁舎建設について
3. 広島県庄原市
【平成29年7月14日（金）】
・庄原市新庁舎建設について

行政視察報告

江津市議会市庁舎建設調査特別委員会

委員長 森脇 悦朗

本市の市庁舎建設計画に伴い「江津市議会市庁舎建設調査特別委員会」において、類似施設の行政視察を行いましたので、報告いたします。

日時:平成29年7月13日～14日

場所:兵庫県太子町、岡山県高梁市及び広島県庄原市

1-1.概要比較

	太子町	高梁市	庄原市
人口	約34,300人(H.29.7)	約31,400人(H.29.6)	約36,500人(H.29.6)
新庁舎完成時期	平成27年9月	平成27年3月	平成21年2月
延床面積(併用施設)	7,364㎡ (地域交流センター)	6,493㎡ (市民ホール、保健センター)	7,429㎡ (市民ホール)
職員1人当たりスペース(単純比較はできない)	総務省基準4.5㎡/人を基準	6.5㎡/人	職員・議員22.7㎡/人
工事費	29億9,500万円 (庁舎・交流広場・地域防災施設・地域交流センター)	22億5,100万円 (庁舎・仮設・駐車場等)	36億8,000万円 (庁舎・車庫・外溝・駐車場)
駐車場について	124台(公用車40台)スペース不足の場合公用車を移動して対応	110台(公用車20台)、公用車は別敷地にも確保	約150台(公用車別)
災害対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・災害は、地震、水害を想定 ・電気室、非常用電源、サーバールーム、備蓄倉庫等諸室を上階に配置 ・雨水貯留槽設置、災害時の各所室の多目的利用 ・電気ガスの二重インフラ <ul style="list-style-type: none"> ・上水耐震貯水槽、井水貯水槽のインフラ整備 ・LPGガスへの緊急対応 ・住民の一時避難拠点として利用可能な屋外交流広場を確保。 ・マンホールトイレの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害は地震、水害(一次避難)を想定 ・3階大会議室に災害対策室が設置できる。 ・正宗公園、駐車場、1階市民ホールを一時避難場所として整備。 ・耐震構造とし、サーバー室は床免震システム ・自家用発電機を屋上に設置(3日間分の予備タンク)基幹設備も高層階に配置 ・下水道遮断時もトイレ使用が可能なように地下ピットに汚水槽。 ・駐車場にマンホールトイレ15基設置できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害は地震を想定、水害は想定していない。 ・自家用発電機を屋上に設置(地下に4日間分の予備タンク)・災害対策室は3階に設置。 ・市民ホールは救援基地、一時避難所として利用 <ul style="list-style-type: none"> ・市民広場は、市民ホールと一体的に、災害時の避難・復旧支援の防災広場として利用 ・6階に備蓄倉庫(18.7㎡)のほか、屋外にも備蓄倉庫あり。
意匠計画の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・太子町の歴史、風土、自然景観を活かした「和のイメージ」を表現 ・各所に植栽を配し、全体にわたり自然が感じられるゆとりと潤いのある景観を形成 ・大屋根や軒、庇がつくりだす軒下空間、建物の水平ラインにより、日本建築のような落ち着きと品のある、景観をリードする庁舎 	<ul style="list-style-type: none"> ・城下町としての歴史的景観と調和する。水平ラインを強調した修景 ・松山城、武家屋敷、神社仏閣をイメージする修景 ・商家をモチーフとした修景 ・伝統的街並みや山並みの景観に溶け込む緩やかな外観 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎がまちなみと調和することを重要視 ・2階までの低層、東側は6階建て(市役所の顔となるよう配慮) ・3階からの上層はトーンを抑えたクリーム色のタイル張り、1・2階はコンクリート打放し

1-2.概要比較

	太子町	高梁市	庄原市
省エネルギー対策(環境性能)について	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根の高断熱化、屋上緑化、太陽光発電採用 ・自然素材や人にやさしい素材を積極的に活用 ・Low-Eガラスの採用 ・ガス空冷ヒートポンプエアコンによる発電によりベストミックスのエネルギー計画を実現 ・深い軒、庇による採光調整、誘引効果による換気 ・蓄熱式床暖房による空調負荷の低減 ・LED照明、人感センサー、タスクアンビエンド方式により照明ロスを減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁など各部の断熱性能を高め、遮熱断熱型の複層ガラスを採用 ・屋上に太陽光パネルを設置、階段室を利用した煙突効果による自然換気の促進 ・雨水を回収し、トイレの洗浄水等の雑用水に利用 ・主要電灯設備は、全てLEDを採用し、人感センサーや昼光センサーにより電力削減 ・冷暖房設備は氷蓄熱式エアコンとし換気設備は省エネルギーに有効な全熱交換器方式 	<ul style="list-style-type: none"> ・木質ペレットによる木質バイオマスボイラーで暖房、夏季は吸収式冷温水機で冷水を作って冷房 ・地中熱を利用した地中熱源システム ・雨水を洗浄水などに利用 ・窓からの採光を考慮した調光機能付照明器具及び人感センサー付き照明器具(LED化はしていない) ・熱線反射ガラス及びLow-E複層ガラスの設置 ・旧市町で使用していた議場家具等再利用(リユース)
来庁者の対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを導入し、高齢者や車いす、ベビーカー利用者、障がい者の利用に配慮 ・車いすに対応できるバリアフリーの座りカウンターの設置 ・プライバシーに配慮した相談コーナーの設置 ・キッズコーナーの設置 ・総合案内を設置し、わかりやすいサービスの提供 ・すべての階に多目的トイレを設置 ・授乳やおむつ替えのできるスペースの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを基調として、すべての人が安全安心に利用できる庁舎 ・住民に身近な手続きや利用頻度の高い窓口を低層階に配置 ・車いすの方の移動がスムーズに行えるよう段差を設けず通路幅などを配慮 ・階段には二重手すり、1階に多機能トイレを設置 ・案内看板は多言語表示、イラストも積極的に活用 ・市民グループが会合などできる場や憩いの場を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に開放されたロビーなどの公共空間を確保 ・相談室等を低層階に配置 ・市民への開放空間は、各種催しが行える広場昨日を持たず ・敷地に駐車場も含めた一体利用が可能なオープンスペースとしての市民広場 ・作品展示、パネル展等のギャラリー、ライブコンサートの会場等多様な市民活用スペースとして利用できる市民ホール
執務室の主な特徴について	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンターより内側には、職員の執務机が見られないよう事務用キャビネットでワンクションおいている。 ・執務機の配置はフリーアドレスの念頭に置き、課長席がない。机は1200*1200で2人で1つを使い、各人は個人用ワゴンを持ち、移動できる。 ・張り紙など表示物を所定の場所以外張らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革に柔軟に対応できるように、オープンフロー、カウンター方式を採用 ・効率及び安全面から、各種業務サーバは集中させて配置。オフィスレイアウト及び情報機器の変更が容易なような床構造 ・会議室は稼働間仕切りを使用し、効率的に利用できる形態 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に特徴的なことはないが、説明によると4階が他の階より職員数が多く狭いといった意見あり。
議会、議場の主な特徴について	<ul style="list-style-type: none"> ・1階に議場を配置し、中庭芝生広場に面し窓を開ければ一体的に利用ができる。 ・議場内の席も段差を設けずフラットにし、配置も円形とし、可動型としている。 ・議会事務局もカウンター方式を採用 	<ul style="list-style-type: none"> ・議場、委員会室の映像や音声撮影収録できる環境整備 ・議場には段差を設けず、椅子や机も可動式を採用。委員会室に可動式間仕切りを設け、閉会中は多目的に利用できる。 ・議員控室にも可動式間仕切りを整備 ・議会事務局は、カウンター方式 	<ul style="list-style-type: none"> ・議会活動の独立性の確保のため5階に集約 ・議場等議会関係施設と執務室や窓口等の明確なゾーニング ・各委員会室は、委員会活動に対応できる諸設備を確保

2.その他意見等

	太子町	高梁市	庄原市
住民の意見等について	<ul style="list-style-type: none"> ・計画段階で500m西へ移動することによる不便さや公共交通機関が不備ではないか。 ・コスト削減の観点から分棟型のデメリットの指摘あり。 ・常に利用者の動向を見ながらきめ細やかな運営の気配りが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・上から見下すことは避けてほしい。 ・子どもも遊べるスペースがほしい。 ・電気代などコストはどうか。 ・障がい者駐車場に屋根がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の確保 ・ゆとりある建物 ・効率の良い建物 ・大地震で倒壊しない構造(検討委員会での意見)
建設後の改善すべき点などの意見について	<ul style="list-style-type: none"> ・サインが分かりにくいとの意見あり(2年経過した本年9月に若干見直しをする) ・議員から議員控室は1階にしてほしかった。 ・傍聴席から議員が見えにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員から上下の階段移動は大変 ・カウンターから横向きに座っていて窓口に来た人に気づかない場合があった。 ・議員から傍聴席が近すぎて気になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書庫が狭い。 ・会議室が少ない。 ・市民から駐車場が狭く、遠いといった意見あり。

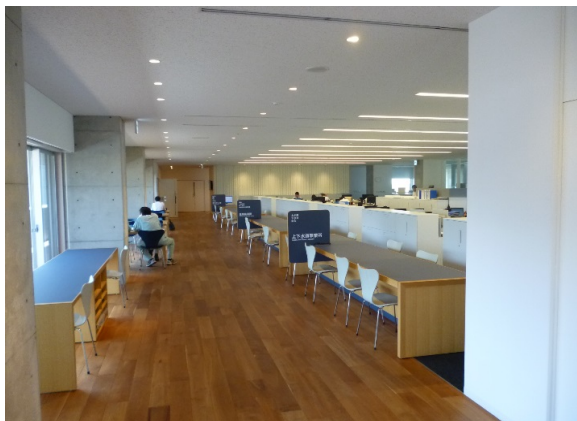
3.所感

3か所とも一長一短あり、人口規模、歴史文化、地形・風土等の違いにより、それぞれの特徴を活かした建物であったと思う。

視察を終えた現段階での私の市庁舎建設のあり方は以下の通りです。

建物の外観等について	<ul style="list-style-type: none"> ・太子町のようにこだわらなくても、高梁市のような耐震化一部免震構造の歴史や伝統に配慮したシンプルな外観にすべきと思う。
延べ床面積について	<ul style="list-style-type: none"> ・高梁市が保健センターや市民ホール込みで6,493㎡であることを鑑み、本市の場合その分を除いた約5,800㎡位でも可能と考える。また、書庫は必要最低限とし、庄原市にあったが公用車車庫、備蓄倉庫兼用の付属建物を別途建設しそこにストックした方がよい。
災害対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応としては、住民の一時避難所の機能をもったものとし、災害対策室を後ほど述べるが、多機能型の議場と兼用した方がよい。 ・最低限、3日稼働可能な自家発電機を設置し、下水道等インフラ機能がダウンした時のために、マンホールトイレ、飲用水の確保等もすべきである。 ・サーバー室は免震対応が望ましい。
省エネルギー(環境性能等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・景観条例上建物屋上にソーラーパネルの設置は出来ないと聞いているが敷地内での設置はすべき。 ・外壁等断熱性能を高め、複層ガラスを採用し、自然換気を工夫し、冷暖房は環境性能とランニングコストに見合うものにすべきと思う。 ・照明等はLED化し、センサーを駆使しランニングコストを抑える。
来庁者の対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のよく使う窓口は、駐車場又は歩行者が入りやすいよう、同階(1階)に集中し、わかりやすいサインを検討すべきと思う。 ・当然ユニバーサルデザインによるバリアフリー化で障がい者、子育て世代、高齢者等に配慮したものでなければならない。
執務室について	<ul style="list-style-type: none"> ・太子町の執務室は参考になるが、少し贅沢感がある。職員の意見を聞き、執務しやすい環境を整えるべき。 ・会議室は現状と他の利用も考え、部屋数が少なくならないよう検討すべきと思う。
議会、議場について	<ul style="list-style-type: none"> ・議会は太子町のようにわざわざ1階に持ってくることはしないで、最上階でよい。議場は高梁市のように平面化、可動式の机、椅子で災害時に災害対策室として使用できるようにした方がよいと思う。
市民の意見聴取について	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計作成時に3パターン程度の案を示し、市民の意見を聴く機会を設けるべきと思う。 ・市民全員の意見を聞くことはできないので、大方反対の意見が出ないのであれば良しとすべき。
工事費について	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮することは当然であるが、将来使い続ける物であるので、あとで後悔しないよう妥協できるものとするのでないものもしっかり見極める必要があると思う。

4.参考写真



太子町 カウンター



太子町 執務室



太子町 議場



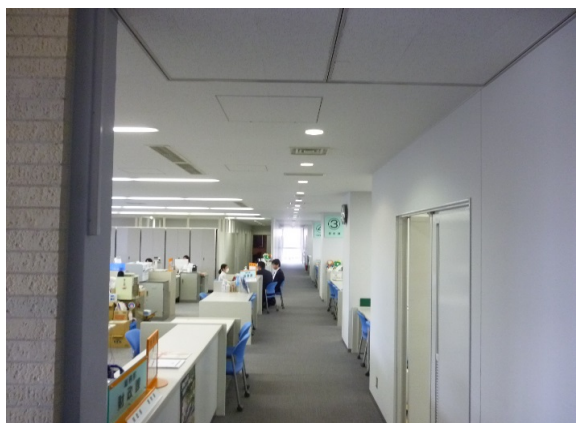
高梁市 外観



高梁市 カウンター



高梁市 議場



庄原市 カウンター



庄原市 書庫兼車庫

市庁舎建設調査特別委員会視察報告

H29.7.31

副委員長 土井 正 人

【7月13日 太子町】

人がつどう、まちをめぐる、太子がつながる。

住民が利用しやすい庁舎を基本に、気楽に立ち寄り、親しみやすい施設、住民が自由に使い、交流が出来る、開かれた庁舎を目指したコンセプトに基づいて建設された。

建物が一般的なビル型ではなく、分棟型として、行政棟、地域交流棟、議会棟に分かれ、3棟が中庭の芝生広場を囲み開かれたものとして設計。

〈行政棟〉

窓口サービス部門は1階、正面玄関のメインフロアに配置、管理部門は2階へ、事業部門は3階へ、その他教育委員会は地域交流館3階に配置となっている。

住民目線とプライバシー保護に配慮し、職員間の連帯が生まれるように配置がなされている。ポスターや張り紙等の表示物を貼り付けることを禁止し、一箇所に集約し、スマートなオフィスとしての配慮がある。

〈地域交流棟〉

住民が自由に気楽に立ち寄れるように配慮がされた施設とする。1階の交流ラウンジは、朝9:00~22:00まで解放されくつろげる場所となっている。

2階は住民に貸し出すスペースとして配置され、屋上オープンデッキを設け昼夜問わず開放されている。

〈議会棟〉

議決機関としての独立した機能が発揮できるよう配置され、議場を1階とし、中庭から窓越しに議場内が見えるようにし、議会が透明でオープンなものとして活動している姿を見せるよう工夫がなされている。

その他それぞれの棟で多くの工夫があり、住民主体を表すものとなっており、個々に多くの参考になるものがあると感じた。

〈感想〉

建設にあたっての思い入れが、住民の誇りとなり得るシンボリックなものであることをコンセプトに取り組みが始まっている。

歴史に残り得るものであること、文化遺産ともなるものとしての基本概念が出来ている。特に建設に当たっての建設部長の思いが大きく影響しているの

ではなかろうか。

基本計画の中で内部検討委員会を設けて、設計者の選考を行う、プロポーザルで行うようしたときに、特に重要なのは、それを選考する審査員の人選が最も大切で、建設の分かる人と、コンセプトを持つ人が必要と強調された。図面も 1,000 枚以上書き直しては修正し仕上げたなど、個々が本当に重要と思えた。(本市ではすでに遅いのかもかもしれないが・・・)

《全体として》

分棟方式はどうか?もある。

本市においては、ミルキーウェイホールやパレットがあり、競合しない工夫が必要で、庁舎内に市民ホールや交流空間など全く必要ないと思う。

議会棟も独立しているので、本当に住民から親しまれる状況なのか?が残る。私などは、住民の皆さんにより身近に感じてもらうには、パレットあたりに議会関係(議場を含め)を配置してもよいのでは、と思っている。

いずれにしても、参考になる部分はたくさんあり、どう活かすか早急に検討がなされるべきと思う。(すでに遅いか?)

【7月14日高梁市】

新庁舎建設については、合併にともない建設計画がなされ、平成22年11月から新庁舎建設調査特別委員会を中心に協議が開始され、新庁舎を現在地で建て替える方針が出され決定した。

基本的な考え方、場所、規模、機能等を定めプロポーザル方式にて設計業者が決定し、地元説明会やパブリックコメントの実施を経て、基本設計及び実施設計が完成し、27年3月に新庁舎が完成した。

〈機能性〉

誰にも優しい庁舎、ユニバーサルデザインを基調として、住民に身近な窓口は低層階、災害発生時の対応伝達がスムーズに出来るよう中層階とし、管理部門も同様に同じ階に置いた。

防災拠点となる庁舎、重要度係数を1.25として採用(重要度係数の意味はよくわからないが)

そのため多少の建設コストは上がっているのか、多くの工夫がなされている。

省エネ対応した庁舎として、遮熱断熱型の複層ガラス、屋上に太陽光パネル、伝統はすべてLEDを使用、事務事業がすべて見える化出来るようオープンフロアとする。

会議室などは可動式として、効率的に利用できる形態としている。

議場には段差のない可動式、委員会室なども可動間仕切りとして多目的に利用できるものとなっている。

《感想》

見た目にはコンパクトに仕上がっているように見え、威圧感はない。機能性は高いのではないかと感じた。

住民の意見として上から目線で見られたくないとの要望で、外枠の窓ガラスの下半分がすりガラスとなっており、住民の意見を聞くなど、なかなかのものと思った。

入口を入るとエントランスホールと市民ホールがあり、どれほどの利用があるのだろうか・・・。

全体として機能性は高く工夫が見られ、細かい部分で多くの参考になるものがあるかなと。

【7月14日庄原市】

市民代表による「庄原市庁舎建設検討委員会」を設置し、基本構想案を検討した。

耐用年数 50 年として地震対策、防災拠点としての機能をもたす。

展示スペース、市民共同スペース、市民広場、市民ホール、新市のシンボリック施設、効率的な行政サービスの拠点などとし、庁舎が街並みと調和することを重要視しての構想として環境配慮型庁舎、木質バイオマスボイラーなどの導入、地中熱の利用による空調には興味を惹かれた。

《感想》

建設より 7 年が経過しているとのことで、少し古い構造なのかと思えた。部署により手狭な所もあり、建設時点との時間経過による不具合は多少仕方がないのかな？

全体として、空間スペースの無駄が多いのでは、市民ホールの吹き抜けやシンボルツリーの展示はどうなのか。最上階が議会関係となっているが、あまり住民の立ち入らない場所であるのに空間が多く、外窓が総ガラス張りとなっているのは全く理解できない。(上から目線)

今回の視察を通して

議会がどのようにかわりがなされたのか、特別委員会の設置などあったが、明快な答えが得られなかった。この特別委員会がどこまでかわれる

のか、最終的には議会の承認が必要なのだから判りません、知りませんでしたは通らない。今この時期に来てどこまで意見が出せるのか、特別委員会設置したからには、もっともっと担当部とつき合わせて意見交換する必要があるのではないかと、でないで設置した意義はどこにあるのか？

平成29年度
市庁舎建設調査特別委員会視察報告書

視察先

- 1、兵庫県太子町
- 2、岡山県高梁市
- 3、広島県庄原市

江津市市庁舎建設調査特別委員会

委員 田 中 利 徳

平成29年度 市庁舎建設調査特別委員会視察報告書

江津市市庁舎建設調査特別委員会委員 田 中 利 徳

市庁舎建設調査特別委員会では、委員6名、事務局職員1名の計7名で、去る7月13日から14日の1泊2日の行程で、兵庫県太子町・岡山県高梁市・広島県庄原市において、行政視察を行いましたので報告します。

まず、1日目7月13日には、江津市役所玄関前を8時30分にマイクロバスで出発し、12時過ぎに太子町に到着、昼食後13時30分から太子町役場を訪問した。太子町は、兵庫県の南西部、播州平野が広がる西播磨地域の一角にあり、姫路市およびたつの市とそれぞれ接しています。町内にはJR山陽本線や山陽新幹線をはじめ、国道2号、国道179号などの主要交通網がめぐり、近畿各地や西日本との広域的な橋渡しの役目を担っている。姫路市や阪神地区へのアクセスの良さと緑豊かさで良好な住環境から人口は増加傾向にあり、平成22年の国勢調査では、兵庫県下12町で人口が最も多いまちとなっている。世帯数13,063世帯、人口34,513人の町である。

会議室において、太子町議会議長森田眞一様の歓迎の挨拶、江津市市庁舎建設調査特別委員会委員長の挨拶の後、太子町経済建設部長より庁舎の基本コンセプトについて説明を受け、その後予め送付しておいた本市視察団よりの質問に答える形での庁舎についての説明を受けた。説明終了後に庁舎の視察をした。

市庁舎建設の基本理念「和のまち太子の核となる庁舎」を謳い文句に①住民にやさしい開かれた庁舎②まちの安全安心を守る庁舎③新しい時代に対応する庁舎④町の景観をリードする庁舎の4点を基本コンセプトとして細かな配慮の下に市民が利用しやすく、市職員が仕事のしやすい素晴らしい庁舎となっていた。

建物全体の特徴は、ビル型ではなく分棟型（行政棟、地域交流館、議会棟）3棟が中庭の芝生広場を囲み住民に開かれた施設である。各種イベントや災害時の対応にも可能な配置となっている。特に議場を議会棟の1階に置き、中庭との一体的な利用もできるよう配慮していた。

【 感想 】

新しい庁舎建設に向けて、基本計画・設計を建設業者に任せるのではなく、建設の中心人物として取り組まれた経済建設部長で自らも建築家であり住民でもある八幡充治氏の思いの反映された庁舎であると感じた。中でも日常勤務する町職員の休憩スペースであるとか、机の配置、そしてパソコン移動をしやすい連結コードの配置にまで職員目線の工夫が随所に見られ、本市にとっても参考にすべき配慮だと強く感じた。

2日目の7月14日には、岡山県高梁市の市庁舎建設について視察を行った。高梁市は、岡山県の中西部に位置し、県下三大河川の一つ高梁川が中央部を南北に貫流し、その両側に吉備高原が東西に広がる世帯数13,481世帯、人口32,075人の市である。日本で唯一、山城で天守が現存する「備中松山城」、銅山の町として栄えたまちなみが特徴的な「吹屋ふるさと村」など、情緒あふれる歴史空間を楽しむことができるまちでもある。

訪問後、会議室において両市議会の挨拶交換を行った。続いて担当課より市庁舎建設についての説明を受け、質疑応答の後市庁舎を見学した。

市庁舎は、基本コンセプトを ①「機能性」誰にも優しい庁舎 ②「安全性」防災拠点となる庁舎③「環境性」省資源・省エネに対応した庁舎とし、1棟建て地上5階地下1階の鉄筋コンクリート造り、のべ床面積は6,166㎡であった。

庁舎の特徴は、「機能性」としてユニバーサルデザインを基調として、すべての人が安全安心に利用で来る配慮がしてあった。「安全性」については、大規模災害時には、防災拠点として迅速かつ適確な情報電奴ができるように3階大会議室に災害対策本部を設置できるようにしてあった。また、災害時の長期停電に備え、自家用発電機を屋上に設置するとともに燃料の予備タンク（約3日分）を設置していた。「環境性」としては、省エネルギーに配慮し、外壁など各部の遮断性能を高め、遮熱断熱型複層ガラスを導入していた。その他、雨水を回収し、トイレの洗浄水に利用し、主要電灯設備は、全てLEDを採用していた。

【 感想 】

建物は、機能性を重視するあまり、職員の休憩場所などもほとんどなく息苦しさを覚えた。日常勤務する職員が元気で誠意をもって住民サービスをするためにも、昼休み時にはリラクゼーションを図るスペースも必要であると感じた。また、想定される災害の主なものが高梁川の氾濫による水害とし、防災設備を上層階にしているにもかかわらず、地下1階に衛星機械室と倉庫・書庫があったのには違和感を覚えた。

2日目の7月14日午後には、広島県新庄市の市庁舎を見学した。

庄原市は、広島県の北東部、中国地方のほぼ中央に位置し、東は岡山県、北は島根県・鳥取県に隣接する“県境のまち”であり、面積は、全国自治体の中で13番目、近畿以西では最大の広さを有する世帯数15,780、人口36,513人の市である。

訪問後、会議室において両市議会の挨拶の後、庁舎建設について説明を受けた。終了後庁舎見学を行った。

庁舎は地上6階地下1階の鉄骨・鉄筋コンクリート造り、延床面積、492㎡であった。

庁舎の特徴の主なものは下記のとおりである。

①防災拠点としての機能は、屋上に自家発電機を設置し、地下に7,000ℓの灯油を確保、約4日間（100時間9の非常用電源を確保し、6階には備蓄倉庫を設置していた。②展示スペース・市民共用スペースとして、市民に解放されたロビーなどの公共空間を確保していた。③市民ホールを設置し、作品展示・パネル展等のギャラリー、ライブコンサートの会場等、多様な市民活用スペースとして利用を考えているが、利用頻度は低いようである。④環境配慮型として、市域の84%を森林が占める豊富な森林資源を利用する木質バイオマスボイラー熱源システムを採用していた。さらに地中熱を利用し、スクリュールヒートポンプにより、地下ピットの水蓄熱槽に冷温水を蓄え、空調に使用していた。

【 感想 】

この庁舎の特筆すべき点は、環境配慮型であろう。市の84%を森林が占め、その森林資源の一部を江津市のパルプ企業へも搬入しており、この豊富な森林資源を活かしていることであろう。更に、新エネルギーである地中熱の利用など、江津市においても一考の価値があると感じた。

市民ホールや市民ギャラリー等は最近の流行であろうが、江津市においては、「パレットごうつ」との競合も考慮しなければならないが、隣に位置する総合市民センターと新庁舎を、雨風を避けることのできる通路で連結し、総合市民センターの玄関ホールや1階2階にあるロビーを利用することにより市民ホールの的なものは解決できると感じた。

2017年7月25日

市庁舎建設調査特別委員会での行政視察についての報告

多田伸治

7月13・14日に兵庫県太子町・岡山県高梁市・広島県庄原市の庁舎を視察しました。

☆兵庫県太子町

太子町は兵庫県南西部に位置する町で、人口は約3万4300人。

2015年9月に竣工した庁舎は、3階建て延床面積7364㎡ですが、地域交流センター（1456㎡）や地域防災施設（1165㎡）などが付属しており、全体での建設費は約30億円となっています。

庁舎建設の際に設置された検討委員会では、肩書きではなく、具体的な実績に基づいて委員を選考したとのことでした。

「住民に開かれた庁舎」をコンセプトの第一に掲げており、庁舎内のいたるところに住民が利用できる会議室などが設けられています。また、その利用を促進するため、利用料を低く抑えています。このほか、中庭の芝生広場は市民に開放されており、近隣の子どもの遊び場となっているとの説明もありました。

災害対策では、「『想定していなかった』は通用しない」として、立地の歴史を徹底調査。その調査から1m程度の浸水が想定されたものの、土地を上げることはせず、電気室・非常用発電・コンピュータ室・備蓄倉庫を上階に設置して対応しています。また、議場も災害時を含めた多機能利用を想定し、物資の搬入やコンサートなどに対応できるつくりとなっていました。

ただ、建物としてはかなり余裕をもったつくりとなっており、この点は財政や住民感情を考慮した上で、参考とするにとどめる必要があると感じました。

☆岡山県高梁市

高梁市は岡山県県中西部に位置する市で、人口は約3万1500人。

2015年3月に竣工した庁舎は、地上3階・地下1階で延床面積は6492㎡、建設費は約27億6000万円。

建設に際しては、旧庁舎跡地と高梁駅前との2つの候補地があったものの、市民や議会から「人の流れの現状維持」との要望から、旧庁舎跡地に新庁舎を建てたとの経緯があります。

庁舎に含まれる保健センター・市民ホールや大会議室は、市民へ解放可能となっているほか、災害時には市民の一時避難場所や災害対策本部としての機能が備わっています。また、駐車場には、災害時の下水道の不通に備えて、マン

ホールトイレを設置できるよう工夫されています。高梁市でもコンピュータ室は上階に設置されており、データ保護のため床免震が施されていました。

市民が日常的に利用する窓口では、1階には総合案内が設置され、子育て関連の窓口には、狭いながらもキッズスペースが設けてあるなど、太子町庁舎ほどの余裕はないものの、最低限必要な機能が備えてありました。

☆広島県庄原市

庄原市は、広島県北東部に位置する市で、人口は約3万6500人。

2009年2月に竣工した庁舎は、地上6階・地下1階で延床面積は7429㎡、建設費は約36億8000万円。

今回視察した3つの自治体庁舎のなかでは、規模も建設費も一番大きく、東日本大震災前の建設でしたが、江津市の「市庁舎改修整備基本計画」策定を委託された(株)佐藤総合計画が参画しており、参考として視察しました。

庄原市庁舎は当初、建設費51億円で計画されていましたが、市議会からの費用圧縮の議決を受け、36億8000万円まで削減された経緯があります。そのため、旧庁舎や合併した自治体庁舎で使用していた機材を再利用しています。ただその削減による影響か、全体的に職員の執務スペースが狭くなっているほか、余裕がないため、太子町や高梁市のような会議室の住民への開放は行なわれていません。

一方で、近隣では駐車場が有料となっている自治体があるものの、「駐車場の確保が中心市街地活性化」として、以前は夜間に閉鎖していた駐車場を、現在は市民に解放しているとのことでした。

市庁舎建設調査特別委員会行政視察報告書

石橋孝義（H29.7）

視察日 平成29年7月13日（木）～14日（金）

視察先 ① 兵庫県揖保郡太子町
② 岡山県高梁市
③ 広島県庄原市

○ 所見及び感想（※が感想）

① 太子町庁舎

1. 設計基本コンセプトに相違点があり、「つながるまち」を創出、「交流拠点」の位置づけである。

※ 江津市と基本的な考えに違いを感じた。

2. ユニバーサルデザインに基づき、バリアフリーに配慮してある。

※ 江津市も考慮すべき点である。

3. 新庁舎の建設に向け、庁内・議会及び住民参加を得て検討組織を設置し、今後の新庁舎の在り方やその重要事項について、総合的な見地から審議し、事業推進を図り、基本計画の段階で3年10ヵ月の時間を費やしている。

※ 江津市は、一部のみで基本計画を進めて、事後承認方式で走りすぎて、十分な開かれた検討とは言えない。

4. デザインにこだわりすぎて、全般にサインも不十分であり、導線もわかりにくい。

※ 市民に分かり易いサインと導線であるべきである。

5. 議場を1階で開放し、市民に使用しやすくしたとあるが、「行政棟、議会棟、交流棟」が独立して、分棟方式でコストも掛かりすぎているが、実際に2年間で1度しか開放してないとのことである。

※ 実際1階2階は市民サービスの重要窓口や関係課であるべきで、江津市ではナンセンスであり、やめるべきである。

※ 人口が右肩上がりの町と右肩下がりの市では、市民（町民）サービスの基本的思考が異なり、江津市の場合、プロポーザルの指示が間違っている。

6. コストは分棟式と湧水が多く各々コストと工期が予想以上に掛かったとのことである。

※ 江津市の場合、コストが掛かりすぎ、適正工事費と工期とすべきである。

※ 太子町と江津市では、市庁舎の基本的コンセプトが異なり、一部分を見た感じで江津市庁舎を計画しているが、基本の勘違いが随所にみられ、猛省すべきと感じた。

② 高梁市庁舎

1. 敷地の設定、規模、配置、平面計画、コスト等どれをとっても納得できる市庁舎である。

※ 江津市庁舎もこうあるべきと強く感じ参考になった。

2. 市民ホール、保健センターも併設してある。

※江津市では不要ではないかと思う。(パレット江津、市民センターで重複している。)

③ 庄原市庁舎

1. 延べ床面積 7,400 m²は広く、共用部分、市民ホール、地下機械室や設備機器にコストが掛かっている。

※ 当市では十分検討する必要がある。

2. 首をかしげる箇所があるにせよ、参考になる市庁舎である。

※ 江津市の場合、プロポーザルの条件に相当無理があったと考える。猛省の中で再考すべきと感じた。

◎ 総括所見

・ 参考になったり、猛省すべき点が多く見つかった。これら執行部との調整や二元代表制で訂正や提案を行ってきたが、どれ一つとして受け入れられていない。視察が良い意味の提起で、改善されるのか、ただ無駄になるのか心配である。

終わり

平成29年度 市庁舎建設調査特別委員会 行政視察報告書：河野正行

・日程：平成29年7月13日（木）～14日（金）

【太子町】

概要～人口：34,330人 職員数167人
開庁時期：平成27年9月
延床面積：7,363㎡
工事費：3,373,464千円（46万円／㎡）

最初に「庁舎は町の人に愛される場所であって、事務所ではない。」という説明が担当者からありました。その言葉の通り、担当者の思い入れが相当あると感じました。議場については、1階にありフラットで円形、組み換え可能で多目的に使えるよう工夫してありました。一般の方に貸し出すことが難しく、今までの利用はないとのことでした。また、備品にもこだわりがあり、ヨーロッパからの取り寄せと聞きました。そして、コンピューター管理が行われており、名前のカードでドアのロック解除、入退出やコピーなど、すべて管理されていました。反省点として、傍聴席が少し高いところにあり、議員の顔が見えづらいことと議員控室が1階ならよかったとの意見を伺いました

【高梁市】

概要～人口：32,075人 職員数270人
開庁時期：平成27年5月
延床面積：6,492㎡
工事費：2,291,984千円（36万円／㎡）

地元業者のJV（3社）で施工された。庁舎の特徴として、「機能性」：誰にも優しい庁舎～ユニバーサルデザインを基調として整備されている。「安全性」：防災拠点となる庁舎～構造体の耐震性能に重要度係数1.25を採用。「環境性」：省資源・省エネに対応した庁舎～遮熱断熱型の複層ガラスを導入し、屋上に太陽光パネルを設置。雨水を回収し、トイレの洗浄水等に利用。主要電灯設備はすべてLEDを採用し、常時使用しない場所には人感センサーを設置。議場には段差を設けず、机やいすも可動式になっている。反省点として、オープンスペースでカウンター方式にしているが、横向きなので市民が訪ねてきても気づきにくいことと庁内のサイン不足で分かりにくいとの市民の声があるとの意見を伺いました。

【庄原市】

概要～人口：36,513人 職員数351人
開庁時期：平成21年3月
延床面積：7,429㎡
工事費：3,740,000千円（50万円／㎡）

江津市市庁舎改修整備基本計画の作業を行った(株)佐藤総合計画が設計した庁舎ということで視察しました。住民への対応は、市民の意見を聞く機会を設けるということで、市民代表による「庄原市庁舎建設検討委員会」を設置し、市民代表15名で4回開催し、市内18か所で市民説明会を行った。これらの意見なども反映し、豊富な森林資源を活用し、木質ペレットを木質バイオマスボイラーで燃焼させ、その熱を利用(木質バイオマスボイラー熱源システム)。地中熱を利用し、スクリーヒートポンプにより、地下ピットの水蓄熱槽に冷温水を蓄え、空調に利用(地中熱源システム)。雨水を利用し、トイレの洗浄や屋内消火栓水して利用。照明設備は、窓からの採光を考慮した調光機能付照明器具および人感センサー付き照明器具の設置を行った。

反省点として、駐車場が狭く、すこし遠い。書庫が少ない。入口がわかりづらい。会議室が少ない。との意見を伺いました。